平和・自立・共生 ともにつくる黄金南風の平和郷・はえばる

はえばる議会だより

平成28年
12月定例会
NO. 196
平成29年2月17日発行

議会報告会を開催 …………………… 2
こども医療費窓口無料化はじまる ………… 4
南星中体育館工事和解金 ………………… 5
オスプレイ重大事故に対する抗議決議 …… 6
14人の議員が一般質問 ……………………10

鬼はそと～
福はうち～
反省した鬼さんと
仲直り

はえるん

写真：宮平保育所
題字：金良　健之介さん
（南風原小学校5年生）

博覧会ではじめて開催

仕事 議会報告会

議会報告会の様子（中央公民館黄金ホール）

第5回議会報告会を11月6日にふるさと博覧会で開催し、33人が参加しました。

開催の趣旨

議会活動を町民に直接報告・説明するため開催しています。また、議会・町への意見や提言などを聴取し議会の機能を高める目的があります。

1部　議会報告会

前回報告会での要望に対する町からの回答を報告しました。平成28年度予算の留意事項5点を説明しました。

①子どもの貧困、連携を
②病児病後児保育の拡充
③待機児童解消の強化
④子どもの居場所づくり
⑤観光協会の体制強化

報告会資料として、政務活動費収支報告、議員や特別職報酬、議会・委員会等の活動内容を配布しました。

2部　意見交換会

議会・議員に対して

問 **若年層の立候補につなげるよう、報酬の議論をしてはどうか。**

答 議員報酬増額は、住民意見を考慮し検討する。

問 **宮平学校線街路事業補助金返還に関する調査特別委員会設置の提案はなぜ否決になったのか。**

答 返還経緯の説明を受け議員それぞれで賛否を表明した結果、賛成少数で否決となった。

町政に対して

問 **保育施設増設で待機児童は解消するか。**

答 平成30年度ゼロを目指している。議会も取組強化を意見した。

問 **病児病後児保育は就労にかかわらず利用できるか。**

答 就労による制限はない。

特集 第5回議会報告会

はえばる2016ふるさと

みんなでチェック議会の

議会ブースで展示・広聴

ふるさと博覧会の期間中、議会活動の周知のためブースを設置しました。議会中継の視聴や展示に足をとめていただき、74人の方からアンケートの回答がありました。

○議会に関心がある66％
○議会を評価する57％
○傍聴（中継含む）した38％
○議会だよりを読む（時々読む含む）82％

議会ブースで議員がアンケート記入を呼びかけました

町長へ要望書提出

町長へ要望書を提出する議長と議会広報常任委員長

平成28年12月26日に議会報告会でいただいた意見を町長・教育長へ提出しました。

議会は3項目を重要な要望とし、早急な対応を求めました。その他の質問・要望に対しても、まとめて報告しました。

1．町内をくまなく回る車の確保を要望する。

2．環境の杜ふれあいへ市民も町民も気軽に利用できる車が確保できるよう、関係機関との調整を要望する。

【回答】町社協が巡回福祉バスを週に3回運行している。財政負担が大きく行政課題の順位からすると導入は厳しい。

※1と2は一括して回答します。

3．黄金森公園陸上競技場は名古屋グランパスのキャンプ受け入れ等でフィールドの使用ができないことが多々ある。町民のために使用されるよう要望する。

【回答】芝生の養生期間も町内の各種団体が利用している。整備された芝生は好評を得ている。今後も町民が活用できるよう進める。

※回答は一部抜粋しています。

12月定例会

12月6日～16日までの11日間の会期で開きました。第五次南風原町総合計画（継続審査）を除き、すべての議案を可決しました。一般質問は14人の議員が質問しました。

平成29年1月診療分より こども医療費窓口無料化

全会一致で修正可決

こども医療費助成条例の一部を改正する条例は、附則の施行日について、付託先である総務民生常任委員会より修正案が出され、全会一致で修正可決しました。

修正前

附則　この条例は、平成29年3月31日までの間において規則で定める日から施行する。

修正後

附則　この条例は、平成29年1月1日から施行する。

条例の施行日を規則で定めることは問題がないと確認しましたが、議会は窓口無料化の開始を明確に示すため、修正しました。

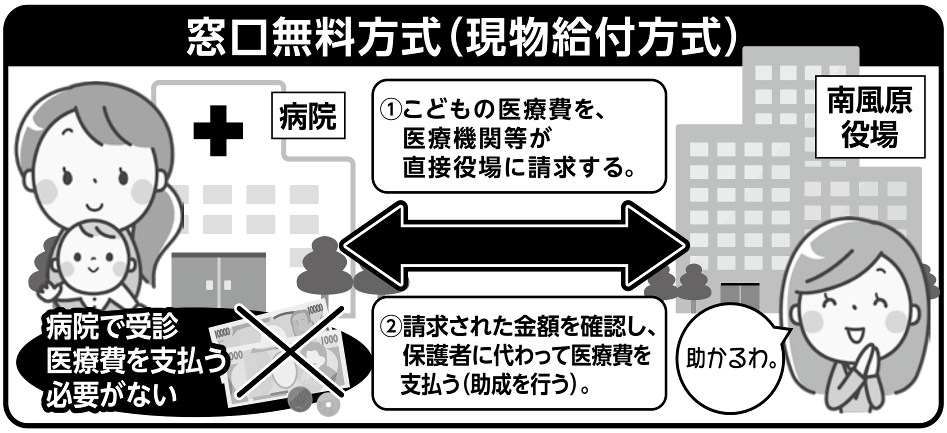
こども医療費の窓口無料化（現物給付）とは？

平成29年1月1日より、中学3年生までの医療費は窓口無料化（現物給付）を開始します。

現物給付は健康保険適用分の自己負担額を窓口で支払うことなく、医療を受けられる制度です。

現物給付が対応できない医療機関についてはこれまでどおり、償還方式（後日振り込まれる制度）での助成となります。

※保険適用外のものなど、窓口無料化できないものもあります。その場合、窓口で支払う必要があります。



平成29年1月診療分よりこども医療費の「窓口無料化」が始まっています。

窓口無料化に対応している医療機関は町内27カ所で全体で266カ所となります。（平成29年2月6日時点）

対応できる医療機関等については、ホームページで随時公開しています。

確認方法
はえばる こども医療　検索

こども課889-7028

賛否分かれる

賛否が分かれた議案と討論があった議案についてお知らせします。
また、すべての議案の賛否は町議会のホームページで公開しています。

議案	採決の結果	知念富信	新垣由雄	大城勝	大宜見洋文	照屋仁士	赤嶺奈津江	浦崎みゆき	花城清文	赤嶺雅和	大城毅	宮城寛諄	上原喜代子	玉城勇	金城好春	大城真孝	宮城清政
和解及び損害賠償の決定について	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	—
平成28年度南風原町一般会計補正予算（第5号）	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	—

○：賛成　×：反対　－：宮城清政議員は議長のため採決に加わっていません

南星中体育館雨漏り工事 和解金600万円 賛成多数で可決

町は平成24年度に南星中学校体育館屋根改修工事を行った。工事完了後の平成26年8月に雨漏りが発生し、町教育委員会は当初、工事の瑕疵(欠陥)として、請負者に補修を求めた。しかし、2回目以降の漏水について教育委員会は、直接下請者に補修工事を依頼した。それでも雨漏りが止まらないことから、下請者は平成28年5月に自己の費用により、屋根全部にコーキング工事1130万円を行った。その後、町への費用請求に至る。

教育委員会は工事瑕疵を特定できなかったが、下請者へ瑕疵担保請求(補修工事)を行っていた。しかし、調停において瑕疵を特定できない場合は、発注者が補修費用を負担する必要があるとされた。裁判所より町は下請者へ600万円を支払う和解案が提示された。

【和解内容】
- 相手方(町)は申立人(下請者)へ600万円支払う。
- 申立人は相手方に対し、その余の請求を放棄する。
- 両者は本調停条項に定めるほか何ら債権債務は存在しない。ただし、瑕疵担保請求を除く。

反対討論

○宮城寛諄
対処は間違いであったことは教育委員会も認めているが、再発防止策が具体的に示されていない。原因追及・再発防止のため第三者による解明が必要である。百条委員会設置も検討すべきであるため反対する。

○大城毅
元請者の責任を除外した結果生じた事件である。瑕疵担保に関する認識の甘さがあった。教育長のみならず、町長も責任の所在を明らかにすべきである。

賛成討論

○玉城勇
瑕疵担保責任の解釈の違いがあったが、両者とも雨漏りを直したいという思いがあった。教育委員会も反省をし、二度とないよう取り組むと確認した。真摯に対応し、両者が納得する結果となったため賛成する。

※一般会計補正予算（第5号）も同様の反対討論のため省略します。

ＭＶ22オスプレイの重大事故に対する意見書・抗議決議

全会一致で可決

平成28年12月13日午後９時30分頃、普天間飛行場所属のＭＶ22オスプレイが沖縄県名護市安部付近のリーフ上に墜落する事故が発生した。

米軍側は、沖縄北東海上での空中給油訓練実施中にＫＣ130のホースがプロペラに接触し不具合が生じ、飛行が困難になったことが不時着の原因であると公表した。

しかし、事故の状況が明らかになるにつれ、機体の損傷状況から不時着ではなく、墜落であると判断せざるを得ない。

ニコルソン四軍調整官は、「事故機は普天間飛行場までの帰還を試みたが、帰還不可能との判断により民間地域を避け海上に不時着させた」として、パイロットの判断を称賛しているが、そもそも墜落事故は絶対あってはならないことであり、米軍の占領意識丸出しの姿勢が露呈した。

さらに、報道によると同時に給油訓練を行っていた別のオスプレイについても、同日午後11時30分頃に普天間飛行場へ帰還した際、機体の不具合によると思われる胴体着陸が確認され、２機のオスプレイが同日に重大事故を起こしていたことが判明した。

オスプレイについてはかねてから欠陥機として危険性が指摘され、われわれ県民は配備の反対を強く訴えてきたにもかかわらず、墜落事故が現実に県内で起こったことに県民の怒りと恐怖は計り知れない。

よって、南風原町議会は、町民及び県民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から米軍及び関係機関に対し厳重に抗議するとともに、左記事項を速やかに解決するよう強く要求する。

◇　記　◇

①ＭＶ22オスプレイ事故原因の徹底究明と公表。

②事故原因が究明されるまでＭＶ22オスプレイの飛行を一切中止すること。

③過重な米軍基地負担、訓練を見直すこと。

提出者　赤嶺　奈津江
あて先　内閣総理大臣
　　　　在日米軍大使　他

意見書　陳情(要請)を妥当とし、国に意見書を提出しました

無料低額診療事業の保険薬局への拡充を政府に求める

保険薬局を、生活困難者に無料・低額な診療を行う無料低額診療事業の対象とすること。

提出者　新垣由雄

安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める

医師・看護師・医療技術職・介護職などの夜勤交替制労働における労働環境を改善すること。

提出者　大城勝

介護従事者の勤務環境改善及び処遇改善の実現を求める

・介護現場労働者の処遇改善を図ること。
・介護保険施設の人員配置基準を利用者2人に対して介護職員1人以上に引き上げること。
・処遇改善は国費で賄うこと。

提出者　大宜見洋文

陳情　審査の結果、要請の趣旨は妥当(採択)としました

南風原町法人保育園園長会からの陳情書【採択】

・園児損害賠償責任保険補助金及び傷害保険補助金の継続助成
・運営補助金の現額継続補助
・保育士確保のため職員給与助成の継続
・保幼小連携を強化するよう計画的に連絡会等を実施

子どもの医療費助成への「罰則」廃止と、国の制度化を求める陳情【採択】

追跡レポート

本町議会が9月定例会で可決し、県議会へ要請した決議が県議会で採択されました。

「子どもの医療費窓口無料化(現物給付)の実施を求める要請決議」(平成28年第6回沖縄県議会定例会12月22日)

【県議会で採択】

南風原町議会自主研修　待機児童対策を学ぶ

はじめに

待機児童ゼロの施策調査のため、1月24日に那覇市へ行政視察を行った。本町の状況と比較し、導入可能な事例がないか議員全員で確認した。

那覇市の待機児童解消対策

①幼稚園の認定こども園への移行

平成31年度までに幼稚園を認定こども園へ移行を進めている。効果に土曜日や午後の預かり保育、給食提供がある。この点において運営方法は違うが、本町の幼稚園とほぼ同じであることを確認した。

②小規模保育増設と連携づくり

0～2歳の待機児童対策のため認可外保育園の小規模保育移行を進めている。退園後の受け皿づくりが本町同様に課題である。

③保育士確保の対策

給与補助は本町でも実施している。市独自の支援員研修、保育士試験対策の無料講座を実施している。

問　認定こども園はどのような形態があるか。

答　公立型と社会福祉法人や株式会社等が運営する公私連携型がある。

問　小規模保育は2歳までだが、3歳児の受け入れ先はあるか。

答　現在は、小規模保育所で対応している。今後は認可保育園や認定こども園で受け入れていく。

問　市が実施する保育士試験対策講座の効果はどうか。

答　市内の学校法人で50人程度の講座を行い、定員を超える応募がある。

那覇市役所内での研修の様子

委員会レポート

議案をより深く審査するため、2つの所属委員会に分かれ、必要な資料を求め、質疑しました。

総務民生委員会

委員長：浦崎みゆき　副委員長：金城好春
委　員：新垣由雄・大城勝・大宜見洋文
照屋仁士・赤嶺奈津江・大城毅

はり・きゅう・あん摩施術助成

問 **健康づくりや疾病予防のために国民健康保険・後期高齢者医療保険加入者へはり・きゅう・あん摩・マッサージなどの施術補助がある。町外でも施術を受けることができるか。**

答 申請に基づき、町指定の施術所で利用できる。町外にも指定施術所がある。

はり・きゅう・あん摩・マッサージ施術助成

補助額1枚800円（年12枚）

ストレリチア立ち枯れ対策

立ち枯れ被害にあったストレリチアのほ場

問 **ストレリチア立ち枯れ対策をJAと農家で実施するため強い農業づくり推進補助金が予算計上されたが、解決策はあるか。**

答 本町はストレリチアの拠点産地として認定されている。しかし、ウイルス性の土壌の病気により立ち枯れがあり、現状を維持することが厳しい。先進地の実験報告などを調査しているが、根本的解決策がまだ見つかっていない。

経済教育委員会

委員長：玉城勇　副委員長：上原喜代子
委　員：知念富信・花城清文・赤嶺雅和
宮城寛諄・大城真孝

いじめ問題対策連絡協議会設置

問 **いじめ問題対策連絡協議会の会議はどの程度開催するか。**

答 年1～2回を考えている。回数や会議の持ち方は検討する。

問 **いじめは早期発見・認知が重要である。予防体制はどうか。**

答 学校でアンケートを実施している。関係機関とも連携を図る。

津嘉山公園の残土処理8月まで

問 **津嘉山公園の残土約4万㎥を処理する工事費として約1億円が計上された。残土処理はいつまでか。**

答 平成29年1月から土を搬出し、8月完了見込みである。

問 **津嘉山公園の本格的整備はいつからか。**

答 土をすべて搬出してからの整備となる。平成30年度完成を目指している。

残土搬出を開始した津嘉山公園予定地

議会広報委員会

委員長：金城好春　副委員長：赤嶺奈津江
委　員：大宜見洋文・照屋仁士・赤嶺雅和
宮城寛諄

議会広報委員会は、11月12日に沖縄県町村議会広報研修会に参加しました。

講師は熊本日日新聞NIE専門員の越地真一郎氏が行いました。

「切磋琢磨～ヒントは隣町にあり」をテーマに討論形式でクリニックを行いました。

越地氏の講評後に討論を行いました

【議会広報クリニック】

はえばる議会だよりの評価

・各ページ両端の帯に、記事の内容が区分けされ誌面全体がスッキリ見える。
・活字の大きさと行間の広さが見やすさを生んでいる。

はえばる議会だよりへの指摘

・活字が大きく行間が広いと情報量が減る。この兼ね合いをどうするか。
・中面はブルーの2色刷で良い。一般質問ページは色が濃い感じがする。

【他町村議会からの質問】

問 議会だより発刊までの日程はどのようになっているか。

答 一般質問ページの内容を各議員より受け取り、その他ページと併せて広報委員会で編集を行っている。定例会終了後50日以内に発刊を行っている。

問 議会だよりをどのように配布しているか。

答 各字に世帯へ配布を依頼している。その他に、町内のスーパーや銀行、病院、コンビニに設置を行っている。

総合計画特別委員会

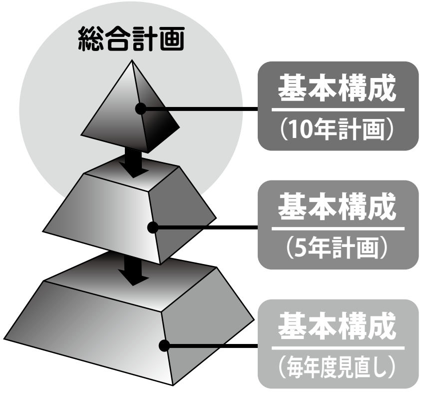
委員長：浦崎みゆき　副委員長：玉城勇
委　員：議長を除く議員全員

第五次南風原町総合計画

第四次総合計画が平成28年度で終了します。平成29年度から10年間の南風原町の目指す方向を明らかにするため、第五次南風原町総合計画が提案されました。

議会は議長を除く全議員で調査特別委員会を設置しました。閉会中の継続審査として委員会を7回開催しました。3月定例会で議決結果を報告します。

第五次総合計画素案説明（12月21日第3回委員会）



総合計画の構成と期間

第五次総合計画は町民・議会・行政による協働を実践するため計画課題6つの柱で構成されています。委員会では計画課題をあらゆる角度から調査、議論を重ねています。

①みんなで考え、みんなで創るわくわくするまち（**自治・協働**）
②きらきらと輝く人が育つまち（**教育・文化**）
③ちむぐくるでともにつくる福祉と健康のまち（**健康・福祉**）
④工夫と連携で産業が躍動するまち（**産業・雇用**）
⑤みどりとまちが調和した安全・安心のまち（**都市基盤・安心・安全**）
⑥環境と共生する美しく住みよいまち（**環境**）

政策を問う ここが聞きたい

こども医療費の現物給付の状況は

答　県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会への説明を行った

赤嶺奈津江 議員

問　こども医療費の現物給付に向け、現在の状況はどうか。

町長　必要な事務に取り組み、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会へ説明を行った。

問　母子及び父子家庭等医療費助成への対応はどうなるか。

副町長　中学校卒業まではこども医療費助成の対象として対応する。中学校卒業後から高校卒業までの生徒とその親の医療費助成は、平成29年中に自動償還へ移行予定である。

学童期生活習慣病の予防健診の状況は

問　今年度より小学5年生、中学2年生を対象に学童期の生活習慣病予防健診が行われている。その受診率や検査結果はどうだったか。

副町長　小学5年生は464人中154人が受診し、受診率は26・5％である。中学2年生は444人中87人が受診し、受診率は19・6％である。糖尿病等で病院受診等を薦めた児童生徒はいない。ヘモグロビンA1c血糖検査で基準値以上が、小学5年生で4・5％、中学2年生で6・9％である。

問　健診結果を受けて、児童生徒へのフォローはどうしているのか。

副町長　医師・栄養士・運動指導士から結果の説明と栄養指導・運動指導を実施している。

問　こども医療費現物給付は、「ひどくなる前に、慢性化する前に」治療することで将来の医療費抑制にもつながる。学童期の生活習慣病予防健診は、現物給付と同様に大きな意義を持つと考える。今回の受診率をどうとらえているか。

副町長　受診率は低いととらえている。生活習慣病を予防するためには、学童期からの生活習慣病予防の意識を高めていくことが重要である。受診した児童生徒の保護者から、「学校で実施して欲しい」、「学校で実施したほうが多くの児童生徒が受診できる」との声が多くあった。教育委員会との調整会議を検討する。

学童期の生活習慣病予防健診項目	
1	●血液検査
2	●血圧検査
3	●周囲測定

町や各種団体が行う行事の調整を

問　協力依頼される各種団体からも行事の見直しや統合することができないかと声がある。参加人数が少ない行事や類似行事を一つにすることはできないか。

教育部長　今後は重複した事業がないか、教育委員会、町長部局と連携して統廃合を含めて調整を行う。

※記載内容は質問議員が要約し、広報委員で編集しており、全文は議会事務局やHP、図書館で確認できます。

照屋 仁士 議員

本町に貢献する企業を応援せよ

答 どういった制度が必要か調整を進める

問 **協働を推進する本町だからこそ地域に貢献する企業、本町に貢献する人が働く企業を応援すべきと考えるが現状はどうか。**

経済建設部長 町に貢献する企業に対しては何らかの形で評価している。

問 **平成22年度国勢調査で本町の労働者人口が約1万5千人で、その3割約5千人が町内で働いている。1万人近くは町外で働いており、当然、納税者である。支えられるべき町民であり、雇用する企業も本町に貢献している。このような認識でいるが、町の考え方はどうか。**

経済建設部長 そのように考えている。

問 **平成24年度に町内企業を応援するだけでなく、町民を雇用する企業に対して、例えば就職した際や資格取得、スキルアップや、優良納税、離職防止等々、奨励金や補助金を検討できないか質問した。その際「まず町商工会を充実させる」という答弁であった。その後の商工会に対する制度がどのように拡充したか。各種奨励金や補助金などに関し可能性はあるのか、どのような検討をしたか。**

産業振興課長 直接的な奨励はまだ実施していない。本町でも中小企業振興基本条例が制定され、どのような制度が必要か、現在その調査を進めている。

問 **一昨年日本青年団協議会で兵庫県庁を訪れた際に、「様々な形での青年教育を充実」「地域活動を行っている人の応援」を要請した。兵庫県庁では社会的な活動を行う企業やその団体に所属する人達に対して、入札・契約において社会貢献評価制度（加点・総合評価方式）を取っている。そのような取組を応援しているとのことだった。率直に良い制度であり、私も今後市町村レベルで検証していきたい。本町の認識はどうか。**

経済建設部長 総合評価方式の導入状況は、県内では那覇市で動きが見られるが、本格実施はまだである。試行は県内15市町村だが、導入はゼロである。そのような状況も含めて総合評価の検討が必要と考える。

町内の事業所も多く参加する道路ふれあい清掃

こんな質問もしました

○第五次総合計画への提案の検討は

大城　勝 議員

高齢者の健康づくりに対する思いは

答　やーぐまいしないで外に出ようとすることが大事

問 町社会福祉協議会が行う高齢者健康づくり推進事業をどのように認識しているか。

副町長 この事業は、利用者も多く高齢者からは好評と聞いている。高齢者の健康づくり、介護予防に寄与していると認識している。

問 町長の高齢者の健康づくりに対する思いはどうか。

町長 家籠り（やーぐまい）しないで外に出ようとすることが大事である。皆が笑顔でふれあい交流することが健康づくりにつながる。

高齢者社会への対応は

問 本町の高齢化社会への対応として福祉政策はどのように進めるか。

副町長 本町は他市町村と比較して高齢化率は低い。今後、高齢者が増加することを見据え、地域包括ケアの構築や介護予防の推進、認知症への理解など高齢者福祉の充実を図る。

巡回福祉バスの増便を

問 社協の巡回福祉バスの増便要望が住民の声としてあるが増便は可能か。

副町長 巡回福祉バスは、月、水、金曜日に運行している。他の曜日は地域の団体等が借用し活用している。他の曜日に増便となると増車の必要がある。購入費用と人件費による財政負担が課題となるため今後検討する。

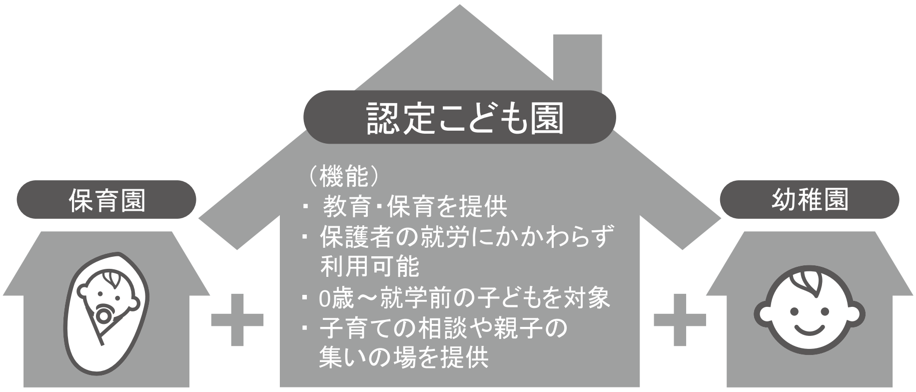
認定こども園設置に向け

問 保育園と幼稚園の機能を併せ持つ認定こども園への対応を問う。

民生部長 役場内にプロジェクトチームを設置し、こども課と学校教育課の課長及び担当者等で調査を進めている。これまで4回の会議を終え、本町の保育・教育について総合的な見地から検討している。

問 認定こども園設置に向け、こども課と学校教育課の、部署の壁を取り払い、こども園課を新設できないか。

副町長 現時点では、こども課と学校教育課が連携して取り組んでいる。新たな課の設置は考えていない。



知念　富信　議員

南風原南・北インターチェンジ付近へホテル誘致を

答　地区計画等による都市整備が必要となる

問　南風原南・北インターチェンジ付近は、今後、発展が見込まれる。地主の意向を調査したことはあるか。

副町長　南風原町の重要な拠点であり、土地利用については大きな課題ととらえている。一部は個別に訪問し、意向調査を実施した。

問　南風原南・北インターチェンジ付近の農業白地区域に建築許可に関する諸条件はあるか。

副町長　農振白地区域において、地域住民に利用される建築物等は、一定の制限のもと建築可能である。一方で、ホテル建設は、市街化区域の第２種住居地域や商業地域等で建設可能となる。

問　平成32年開業予定の「与那原町、西原町地区ＭＩＣＥ施設」に関連して、南風原南北インターチェンジ周辺にホテル関係者が興味を示していると聞いた。区域区分見直しを含め、誘致に向けて取り組むべきではないか。

副町長　南風原町総合計画では、南インター周辺が新規産業集積ゾーン、北インター周辺が商業広域ゾーンと位置付けている。本年度の区域区分見直しで、市街化区域編入を県に要望した。新市街地の編入は地区計画等による都市整備が必要となる。

宮平土地改良区境界に用排水路設置を

問　宮平土地改良区は、南北に傾斜となっているため、境界部分が削られて溝ができている。溜まり場もあり、環境が悪い。用排水路設置ができないか。

経済建設部長　宮平土地改良区の事業完了後の排水処理と畑地の維持管理は地主が行うべきと考える。そのため町による畑地間への排水路設置は困難である。地権者を集めて、対策を話し合いたい。

問　宮平学校線の宮平向け右側の道路沿いを、農振地域除外するよう以前から議会等で要望している。現状はどうなっているか。

経済建設部長　平成24年度に農業振興地域整備計画の総合見直しで、宮平学校線の両側を除外するように要望した。左側は市街化区域に囲まれているので了解が取れた。右側は優良農地のため県から見直しできないと聞いている。

農振除外を要望している箇所

婚活で町おこしを

答　商工会や観光協会でプロデュースが可能か検討する

上原喜代子 議員

問　本町の30代から50代の未婚者はどのくらいか。

副町長　平成27年度の国勢調査データでは、30代から50代の1万4815人のうち23・6%の3498人である。

問　近隣市町村と比較して本町の未婚率は多いのか。

副町長　本町の未婚者数は、23・6%で、近隣市町村が24・1%となっている。

問　婚活支援で政府予算倍増とのことであるが、本町でも婚活パーティーを事業化し町おこしができないか。

副町長　商工会や観光協会がプロデュースすることが可能か検討する。

問　町おこしは基本的には「ここでしかできない」ということに尽きる。イオン南風原店で行われた南風原物産展では、艶やかな絣のドレス姿で人前結婚式が執り行われた。ふるさと博覧会では、町長を先頭に絣の羽織袴でファッションショーもあった。題材はそろっているのに関連付けられていない。継続事業として展開し、観光協会の自立に向けることはできないか。観光協会にはケータリングの他に収益の多い事業があるか。

産業振興課長　模索している段階で収益性を維持できるものはまだ確立できていない。

問　婚活を町おこしとし、事業化するための専門的なコーディネーターの養成を行っていく計画はあるか。

産業振興課長　プロデュースやビジネスモデルの確立のためのトレーニングは必要だと考えている。沖縄県等と調整して事業導入が実施できるよう頑張っていきたい。

問　婚活だけでなく収益性を考えた事業を検討したほうがいいのではないか。

産業振興課長　市場ニーズに適合し地域資源を活用した、経済的波及効果を観光協会がどれだけできるのかに尽きるのではないか。観光協会自身が自立して収入を得ることは、非常に厳しいと考える。しかし、各所に経済的波及効果をもたらすことは可能である。

町内の飲食店を食べ歩けるまちブラ

大城　毅 議員

年金収入のみの高齢者支援は

答　社協と連携し生活保護の申請等につなげる

問「収入が年金のみ」の高齢者をどのように把握しているか。その平均収入はいくらか。今後、都市化が進むほどに「収入が年金のみ」の方の比率は高まる。支援をどう図るか。

副町長 人数は把握しているが、平均収入は把握していない。生活困窮者の把握は、町社協で小学校区ごとに各2人のコミュニティソーシャルワーカーが地域訪問相談などを行っている。社協と連携し、小地域福祉ネットワークでの見守り、生活保護の申請等の支援につなげている。

問 町老人クラブ連合会の加入率はいくらか。

保健福祉課長 加入率は16・1％となっている。

問 加入者は旧12字がほとんどだと思う。他の大部分にケアが届きにくいのではないか。

民生部長 町の高齢者保健福祉計画に基づき、地域包括ケアシステムを構築する。地域とも連携して支えて行ける体制を目指す。

観光発信施設設計画の状況は

問 観光発信施設設計画の目的や概要、年次計画を聞きたい。

副町長 本町への新たな誘客等を目的とし、平成27年度から28年度まで基本構想・計画を作成する。30年度以降に展示プランや運用プランを検討し、基本設計等に着手する。

ミニデイサービス利用者交流会

問 財政計画、進捗状況はどうか。

副町長 本年度に基本構想等の答申を受けて、場所の選定、機能の決定、運営体制、財政計画を行う。これまで委員会を3回、作業部会を7回行っている。

問 審議会の議事録はどうなっているか。

産業振興課長 現在まだ整備中である。

問 前年度の3月に終わった委員会の議事録もないような事態は許されない。

町長 できるかぎり早めに議事録等を公表していく。

問 オスプレイ墜落について考えを聞きたい。

町長 原因究明を徹底的にされるまで運用するべきではないと思っている。

こんな質問もしました

○こども医療費現物給付実現を
○バス停へ屋根設置の推進は

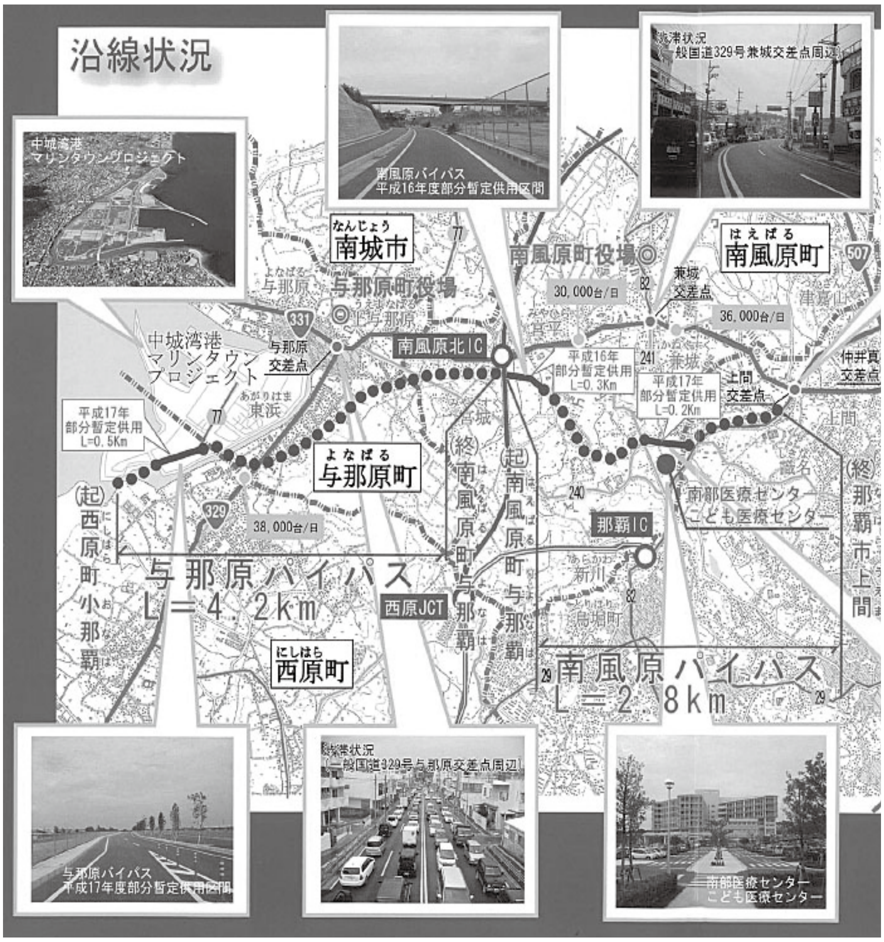
南風原町北地区の開発を

答 賑わいと潤いのある商業地の形成を図る

新垣 由雄 議員

問 与那原・南風原バイパスの整備などで北丘小学校区付近（南風原町北地区）が交通結節点として便利な区域となる。そのような利便性を生かした事業等の検討をしているか。

経済建設部長 那覇空港自動車道南風原インターや国道329号バイパス整備の広域交通の利便性を活用する。商業施設の集積をうながし、賑わいと潤いのある商業地の形成を図る。今後事業が導入できればそのように進めたい。



与那原・南風原バイパス予定図

里道管理の責任所在は

問 各自治会長との委託契約書の中に里道関連が明記されているか。

総務部長 町と自治会の業務委託の中に特に里道という項目はない。

問 里道の管理責任を町と自治会の間で明確にしてはどうか。

副町長 里道の面積は広大であり行政による草刈り等の管理は行き届かない状況である。これからも地域に日常の管理をお願いしたい。管理責任は町にあると考えている。

里道とは
畑のあぜ道や集落内の通路水路等が、現在もそのまま道として使われている場所

金城　好春 議員

役場庁舎南側駐車場環境整備を

答　役場前交差点改良工事時に行う予定

問　役場庁舎南側駐車場の出入口は、車が1台しか通らない。拡幅し改善できないか。

副町長　出入口幅員を8メートル程度に拡幅し、出入りに支障がないよう県南部土木事務所と調整を行っている。

問　お金がかからない方法として、砂利を敷いて出入口を拡幅してはどうか。

総務部長　臨時的に拡幅し相互通過することも含め調整しながら検討する。

問　駐車場の通路に植栽した黒木が数本枯れている。植え替えして景観を良くできないか。

副町長　造園会社に確認したところ、土壌がクチャで水捌けが悪く、樹木の生育環境としては厳しい。植え替えは、植物の種類や環境整備を含め検討する。

安心、安全な交差点整備を

問　津嘉山区内町道156号線と国道507号との交差点は、那覇方面から八重瀬町方面に向かうバイクの接触事故がよく起きると聞いた。町道の路面に白線を引いて、黄色い文字で「止まれ」と記すことはできないか。

副町長　道路標示は道路規制にあたるため、道路交通法で公安委員会のみ設置権限がある。安全対策は与那原警察署と協議する。

問　国道507号の両サイドに、安全確認ができるようカーブミラーの設置要請ができないか。

副町長　カーブミラー設置は、自治会からの要請により、町で設置している。自治会と調整を行う。

集落間防犯灯の点検を

問　本部公園前から津嘉山中央線までの区間に設置されている防犯灯がいくつか消えている。改善できないか。また、全集落間の防犯灯の点検をする考えはないか。

副町長　平成27年度より町内の防犯灯はすべてLDE化に向け事業を行っている。町内の防犯灯はすべて調査を行っている。指摘の箇所は、次年度以降にLED化の予定であり、それまでは、既存の蛍光灯で対応する。

次年度以降にLED化が予定されている

河川の整備はコンクリート施工を

答　住民意見を取り入れ柔軟に対応する

玉城　勇 議員

問　**国場川の整備で、河川の景観を良くするため川底に大きな石を配置している。水の流れを楽しめるようにしているが、雑草が繁茂して景観を損ねている。今後の河川整備は、川底をコンクリートにすることで雑草が生えないように変更できないか。**

まちづくり振興課長　県の担当者から基本的に河川の川底をコンクリートにすることはできないと聞いている。当間橋の右岸側に関しては、住民から石張りの護岸整備の要望があり、県は変更の検討をしている。柔軟に対応しているので、調整していきたい。

問　**河川について、町内には長堂川や宮平川もある。すべての河川整備で県と交渉を行ってほしいがどうか。**

町長　整備され2、3年は良いが、その後は草が繁茂し、1年越し2年越しに浚渫している。維持管理に膨大な金がかかる。一部分に魚の生息や自然とのふれあい（親水）を設けてはどうだろうかと考えている。段差的なものを造ることによって一挙に流れていくようにするのではなく、溜池を造っていくことが現実的である。堆積を助長するような石を置くような方法はなじまないので、見直す必要もあると思う。全体については、地域の要望に応えていくよう要請したい。

草木が繁茂している国場川（兼城）

役場内に保育施設の設置を

問　**役場庁舎内に保育施設を設置することで、職員が子どもを預けて安心して仕事ができる。役場庁舎内に設置してはどうか。**

副町長　町全体の待機児童解消を含めた子育て支援の充実を最優先する。

問　**保育士が産休・育休で休んだ場合、その園は保育士が不足している。事業所内保育所を町が運営することで、子どもを預けて保育士は園に戻ることができる。保育士の確保のためそのような事業が必要ではないか。**

民生部長　保育士が自分の子どもを事業所内の保育施設に預け、仕事に従事できると素晴らしい取り組みである。町内でも保育士に特化した事業所内保育等あれば、町も支援していきたい。

大宜見洋文 議員

子育て支援事業に作業療法士との連携を

答　活用の可能性を検討していく

問　作業療法士の高度なスキルが保幼小中学校の子育て支援に有効である。本町の取り組みに導入は可能か。

副町長　子どもの居場所づくりに関する講演会で、作業療法士のスキルが支援を必要とする子どもたちに有効であることが明らかになった。事例報告された岡山県の取組は、学童クラブとの連携から始めている。本町ではさらに調査を進め、作業療法士の活用の可能性を検討していく。

問　現在、県内で作業療法士が導入されている取り組みはあるか。

こども課長　金武町のＮＰＯ法人が始めている。保育園や小学校、特別支援学校を回り、巡回相談を受けている。障がいの有無にかかわらず、どんな生徒にも望んだ教育が受けられる社会を作る教育（インクルーシブ教育）に取り組んでいる。それについて社協と勉強会ができないか検討している。

子どもの居場所づくり講演会

貧困世帯の子ども支援は

問　貧困世帯の子ども支援事業の実施から半年たち、成果はあるか。

こども課長　グループに入れない子が、自ら発言し学習に参加している。自ら考えようとする力が付いている。元気ＲＯＯＭに通う子のほとんどは、食生活が乱れていたが、長期間しっかりと食育も含め食事の対応している。その結果、身長と体重が増え、野菜嫌いが直った。自分で調理ができるようになったなどの成果が挙げられる。

問　貧困世帯の子ども支援事業から見えてきた課題はあるか。

副町長　課題は、小中高校の連携をさらに深めて、包括的に子どもを支援する体制づくりである。

問　高校は県の管轄である。どのように対応していくか。

こども課長　市町村との連携が必要だという声が高校側からある。真和志高校には担当が出向き南風原出身の子どもの状況を聞いた。不登校気味、高校中退の可能性があるという情報を得た。南風原高校にも出向いて調査し、どのような連携が可能か検討していく。

こんな質問もしました

○特別な支援を要する児童・生徒への対応を
○ＩＣＴ教育は
○町立小中学校の図書館司書は
○教職員の職場環境改善を
○農福連携を
○宮平地区農地整備事業の残金（余剰金）は
○ウガンヌ前公園整備事業は

学校給食のあり方を問う

答　いろいろな角度から議論していく

宮城　寛諄 議員

問 **隣町の議会広報誌に、広域行政で給食センターの運営を3町の副町長で話しあっていると報告されているが、事実か。**

副町長 立ち話程度はあったが、正式な場として、3町で話し合いをした事実はない。

問 **食材の確保、アトピー等の問題を考えたとき、学校ごとの給食、小回りの利く調理場がいいのではないか。また第五次南風原町総合計画案で広域化について述べているが、給食センターもその一つとして考えているか。**

町長 学校ごとの給食は、理想である。場所・諸経費を考えると理想のようにはいかないのが現状である。広域の問題等もいろいろな角度から調査研究することも大事である。

山川地区付近の農道整備を

問 **山川地区から八重瀬町へ町道126号線が延びている。その町道から、2本の農道がある。八重瀬町地番だが、地権者は南風原町民である。整備ができないか。**

経済建設部長 一つは私道のため整備はできない。もう一つは八重瀬町の里道となっており整備できない。

問 **本町で整備できなければ、八重瀬町に要請できないか。**

経済建設部長 農家の皆さんが困っているということで、要望については一緒にやっていきたい。

問 **隣町にまたがるとき、整備するための基準はあるか。**

まちづくり振興課長 当該市町村の区域を越えて市町村道の認定をすることはできる。その場合は、相手方の議会の議決が必要となる。また、町道認定は起点・終点が国・県・町道及び農道のいずれかに連結となっているか、集落、公共施設に通じる道路かが認定の基準となる。今回の2路線は基準に合わないと考えている。

整備を要望している2本の農道（山川付近）

こんな質問もしました

○高齢者福祉のさらなる充実を

赤嶺　雅和 議員

特定健診の受診率向上を

答　ナイト健診や日曜健診を行っている

問　本町の特定健診の受診率はどうか。また受診率を上げるための対策はあるか。

副町長　平成27年度の受診率は48％である。受診率を上げるための対策としてナイト健診や日曜健診を行っている。未受診者に対して、電話や個別訪問、広報車によるお知らせ、自治会の協力員と連携し受診勧奨に取り組んでいる。受診後の結果は、保健師、管理栄養士が個別に訪問している。重症化にならないよう指導している。健康増進にかかる事業として、がん検診や骨粗しょう症検診、はり、きゅう、あん摩、マッサージの施術費の助成を行っている。

問　特定健診や長寿健診の受診率と年代別の受診率は把握しているか。

国保年金課長　特定健診の受診年齢は40歳から74歳までとなる。75歳以上は長寿健診となる。年代別のデータはまだ出していない。

問　医療費の推移はどうか。

国保年金課長　1人当たりの医療費が23年度は27万７３０９円、24年度は28万５６９２万、25年度は30万３１３７円、26年度は30万８３３１円、27年度は32万１２７９円となっている。

特定健診受診者数

	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
対象者数	5,673 人	5,723 人	5,770 人	5,758 人	5,585 人
受診者	2,697 人	2,568 人	2,776 人	2,702 人	2,681 人
受診率	47.5%	44.9%	48.1%	46.9%	48.0%

子どもの貧困問題現状は

問　子どもの貧困問題の原因は何か。

副町長　県が公表した子どもの貧困率は29・9％である。背景としては次の理由がある。

①産業振興の遅れ、失業率が高水準で推移したこと

②1人当たりの県民所得が全国最下位であること

③ひとり親世帯の出現率が高いこと

本町も同様の理由であると思われるが、町独自のデータはない。不適切な養育環境や虐待、社会的な孤立などと経済的な貧困が結びついて派生すると考えられる。本町では子どもの貧困が次の世代に連鎖しないように、子ども元気支援補助員を2人配置している。支援を必要とする子どもの居場所づくりとして、中学校区に一つずつ子ども元気ＲＯＯＭを設置し対応している。

食べ物のムダをなくす努力を

答　事業者や家庭へ講演会の開催に向け検討する

浦崎みゆき 議員

問 **まだ使ってない食品などを寄付するフードドライブに本町はどう取り組んでいるか。**

副町長 町社協が窓口となり受付している。お米や缶詰等の提供がある。町も広報誌等でフードドライブの支援をしていく。

問 **食品ロスを減らすための講演会を開催できないか。**

副町長 国民全体で毎日ご飯1杯以上の食品が捨てられている状況がある。事業者と家庭、双方における食品ロスを減らすことが必要である。講演会等の開催を検討する。

利用しやすい町内循環型バスを

問 **町民より環境の杜ふれあいや町内を回る車を確保してほしいとの要望がある。どう考えるか。**

副町長 町内を回る車は、財政的負担が大きく厳しいと考える。

問 **町民に役立つ交通体系を調査研究し、持続可能な交通網の構築をしていく考えはないか。**

総務部長 国道329号南風原バイパスの利用やLRT、鉄軌道などの勉強会を行っている。他府県の事例では、何人かで高齢者をバス停まで送るシステム等がある。今後調査研究を行いたい。

男女共同参画推進条例の制定を急げ

問 **第二次南風原町男女共同参画計画（まじゅんプラン）策定以降、推進された具体例はあるか。**

副町長 具体例としては、審議会等での女性登用率が25・5％から30・8％と向上している。北丘小学校、北丘幼稚園で男女混合名簿を平成28年度より取り入れている。女性の管理職が1人から3人となった。

問 **男女共同参画社会を実現するためには、男女共同参画推進条例制定が必須事項と思われる。状況を問う。**

副町長 目標達成に向け平成30年から33年までに条例制定を行う。

まじゅんプランの基本方針

- 男女共同参画への意識づくり
- 男女が共に健康で安心して暮らすための条件整備
- 家庭・地域・職場における男女共同参画の環境づくり
- 女性の能力を活かすための積極的方策の推進
- 平和への貢献、国際協調と文化の創造

こんな質問もしました

○B型肝炎ワクチンの接種状況は

サッカー専用の競技場を

答　既存の陸上競技場を利用した方が効果的である

花城　清文 議員

問 第五次総合計画でもプロのサッカーチームを誘致するとある。一方、陸上競技場が使用できないと町民からの苦情もある。専用の競技場を整備することでプロの試合を見ることができる。また、他県からの観光客を誘致でき、まちの活性化につながる。サッカー専用の競技場を建設してはどうか。

教育長 新たに専用の競技場を建設するのではなく、既存の競技場を利用した方が効果的である。

こども医療費の現物給付を問う

問 町長が発するメッセージは町民との約束である。町長は新聞で、平成29年1月から現物給付を実施すると公表している。しかし、町民はまだ通知が来ていない。本当にできるのか不安と聞く。平成29年1月診療分からの実施はできるのか。また、受け入れてくれる病院はどこか。

副町長 副知事から平成29年3月に県の要綱を改正し、平成29年1月にさかのぼって適用すると確認した。実施できるものだと考えている。実施可能な病院から順次行われる。

認可外保育園への支援を問う

問 認可外保育園に入園している園児も町民の子どもで、その園児が健やかに成長するよう等しく行政の支援があってもいいと思う。また、町の次世代の育成行動計画でも多様な子育て支援をするとある。職員の給与等の支援を行ってほしいがどうか。

副町長 内科検診や歯科検診、認可外保育事業補助金、園児1人あたり月額1500円を補助している。認可外保育園職員への給与補助は考えていない。

新川から北丘小学校への通学路整備の状況は

問 以前の一般質問に対し、平成29年度に整備すると答弁があった。新川階段は町内で一番危険な通学路である。これ以上遅らすことなく児童が安全で安心して通学ができるよう整備してほしいがどうか。

教育長 工事を平成29年度から開始し、平成30年度の完了予定に向け取り組む。

新川階段の現状

身近なところから男女参画を

津嘉山　神里　則子さん

　自治公民館出前講座で、津嘉山老人会は男の料理教室（全５回）を実施し、私は補助員として参加しました。男性に限定したので集まるか不安でしたが、14人の参加がありました。

　料理初心者の男性ということで講師には、作りやすいメニューを考案してもらいました。「先生、みじん切りって何」から始まり、レシピを見ないで何でも質問をしてくる受講生にどうなることかと心配しました。回数を重ねるごとに手際良く作業ができるようになりました。

　習った料理を家で作り、「おいしい」と家族に喜ばれた」「野菜の切り方が分かった」「妻の大変さが分かった」前向きな意見が出て大成功だと自負しています。

　近頃では、イクメンがはやっているようですが、まだ家事は女性がするのが当たり前の世の中です。男性が炊事や育児などに積極的に参加すると、女性も社会に出やすくなると思います。町議会の男女比からも分かるように女性は圧倒的に少ないです。議会のみなさん是非ご一考をお願いします。

受賞　旭日単光章授与

金城　金成氏（大名）

元町議会議員として３期12年にわたり、地方自治の発展に貢献し、国から表彰されました。

町民の声を受けて

声　政務活動費は適正に使われているの。

答　政務活動費の収支報告は、ＨＰや議会だよりで公表しています。

　また、町民や町内に事業所を有する個人・法人は議会事務局にて閲覧することができます。

次回定例会の開会予定
3月2日（木）午前10:00

南風原町議会中継　検索

表紙の題字・写真をお寄せください

　あなたの作品を議会だよりに掲載しませんか。表紙の題字と写真を募集中です。のびやかな題字や笑顔あふれるお写真をお待ちしています。

議会だよりへのご意見・ご感想も受け付けています。

連絡先：議会事務局（担当：広報係　新城（しんじょう））
TEL.889-3097　FAX.889-4499
E-Mail　H8893097@town.haebaru.okinawa.jp

編集後記

　先日、友人から「議会だよりに載っていた○○の件は、なぜそうなったの」と聞かれ、経過を説明しました。「もっと詳しく載せたらいいのに」とも言われました。

　見てくれていることにうれしくなりましたが、同時に「どうすればもっと分かりやすくできたのか」と悩みました。限られた誌面と文字数で締め切り内に読みやすく分かりやすい誌面になるよう、さらに意識して取り組みます。

　議会として、町民の皆様からのご意見・ご提言をいただく機会として、議会報告会を開催しています。今回は、ふるさと博覧会の会場で行いました。次回も人が集まるところで開催しようと企画中です。ぜひ多くの皆様が参加できるものにできればと思います。

（担当／赤嶺　奈津江）

■発行　沖縄県南風原町議会
■編集　議会広報常任委員会
〒901-1195　沖縄県島尻郡南風原町字兼城686番地
TEL(098)889-3097　FAX(098)889-4499
印刷／株式会社　近代美術